

第56期 報告書

令和4年4月1日～令和5年3月31日



初夏の室堂平とホテル立山

立山貫光ターミナル株式会社

事業概況 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

令和4年度の事業概況についてご報告申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の流行から3年目を迎え、政府が人流抑制から、感染対策と社会経済活動の両立を図る政策へと本格的に舵を切ったことにより、ウィズコロナが定着し、アフターコロナに向けて、新たな段階に進みました。

国内でのワクチン接種が進んだこともあり、経済活動の正常化が期待されましたが、感染の再拡大や物価高騰などが影響し、厳しい経済状況が続きました。

観光業界のおきまして、度重なる感染拡大の波が国内旅客の旅行意欲に水を差し、旅行需要は大きく回復したとは言えない厳しい状況が続きました。

そうした中、当期の立山黒部アルペンルートは昨年同様、4月15日に立山駅～信濃大町駅間の全線において営業を再開し、合わせて、ホテル立山・室堂ターミナルに於ける宿泊、飲食及び物品販売、及びホテル立山売店部・立山駅店、黒部平店も営業を開始いたしました。

当期は昨年同様、「ホテル立山/室堂ターミナル・新型コロナウイルス感染防止対策」に基づき、様々な感染防止に努めながら、11月30日まで営業いたしました。

一方、ホテル立山売店部の美女平店、大観峰店につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大が続き、昨年同様に旅行動向の大変厳しい状況が続く見通しから、当期も営業を休止いたしました。

営業の推移を概観いたしますと、3年ぶりにコロナ禍による行動制限のない状況下での営業再開を迎えることができました。全国旅行支援に代わる富山県民・地域ブロック県民割キャンペーンが実施されたこともあり、4月から6月にかけて、国内旅客においては順調に推移しましたが、7月に入り新型コロナウイルスのこれまでにない急激な感染拡大が影響し、アルペンルートの入込数に大きな影響を及ぼしました。また、第7波が収束した10月中旬以降には、全国旅行支援の実施や、水際対策の緩和で、国内外とも旅行需要が活発化しましたが、大きな回復には結びつきませんでした。

当期の収入は、一人当たりの消費単価向上や、地域ブロック割の付属クーポンによる購買意欲向上により、前年を上回る実績となりました。

この結果、ホテル立山宿泊人員は合計24,275人（前期比152%）となり、当期の営業収益は、ホテル立山収入6億88百万円（前期比163%）、店舗（飲食・物品）収入5億30百万円（前期比178%）となり、店舗外収入23百万円、賃貸収入1億82百万円を加えた営業収益合計は14億24百万円（前期比154%）となりました。

営業費につきましては、大変厳しい経営環境を踏まえ、昨年から引き続き、経営全般にわたる業務の効率化や勤務体制の合理化による費用抑制に努め、営業費合計は13億57百万円（前期比124%）となりました。

これに、営業外収益28百万円、営業外費用10百万円を加減した当期の経常利益は84百万円となりました。さらに、特別損益、法人税等を加減した結果、83百万円の当期純利益を計上し、5期ぶりの黒字となり、前期末の債務超過は解消することとなりました。

部門別営業成績は次のとおりであります。

ホテル立山宿泊営業成績表（令和4年度）

項目	実績	前期比%	
営業日数	日 220	96	(備考) 営業期間(当期) 令和4年4月15日～令和4年8月12日 令和4年8月23日～令和4年11月30日 (宿泊日数218日) 営業期間(前期) 令和3年4月15日～令和3年11月30日 (宿泊日数229日)
宿泊人員	人 24,275	152	
一日平均宿泊者数	人 111	159	
営業収入	千円 688,829	163	
宿泊収入	千円 685,148	163	
雑収入	千円 3,680	139	
一日平均収入	千円 3,131	170	
客室数	室 81	100	
延使用客室数	室 11,327	150	
客室回転率	% 64	157	
宿泊定員	人 260	100	
宿泊効率	% 43	159	

室堂飲食及び物品販売業営業成績表（令和4年度）

項目	実績	前期比%	(備考)
【店舗営業】			店舗営業期間(当期)
店舗営業日数	日 230	100	令和4年4月15日～令和4年11月30日
室堂到達人員	人 350,016	161	
店舗営業収入	千円 530,230	178	店舗営業期間(前期)
食堂収入	千円 139,509	164	令和3年4月15日～令和3年11月30日
喫茶収入	千円 111,450	305	
物品販売収入	千円 273,649	158	(美女平店、大観峰店は令和4年度営業 休止)
雑収入	千円 5,620	193	
一日平均収入	千円 2,305	178	
店舗営業収入/室堂到達人員	円 1,515	111	
【店舗外営業】			
店舗外営業収入	千円 23,110	90	
PB商品販売収入	千円 9,808	90	
物品販売収入	千円 13,129	91	
雑収入	千円 172	142	

財産および損益の状況の推移

区分	第53期 (令和元年度)	第54期 (令和2年度)	第55期 (令和3年度)	第56期(当期) (令和4年度)
売上高(千円)	2,629,582	609,710	927,394	1,424,536
当期純利益(損失)(千円)	△96,595	△909,248	△129,847	83,561
1株当たり当期純利益(損失)	△107円33銭	△1,010円28銭	△144円27銭	92円84銭
総資産(千円)	2,016,108	1,857,965	1,530,679	1,530,378

令和5年度の取り組み

5月8日に新型コロナウイルス感染症の法律上の分類が季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられたことにより、様々な行動制限がなくなりました。

コロナ禍を経て変化した消費行動や価値観に対応し、旅客回復に向けて取り組みを進めていく必要があります。

また、今後も一定の感染拡大リスクを想定した事業運営が必要となることから、昨年度の営業成績を踏まえ、改めて中期経営計画の見直しを行いました。なお、中期経営計画を全社一体となって推し進めるため、「経営管理本部」を設置いたしました。今後、新たな計画に基づく施策を着実に進めてまいります。

1. 経営基盤の安定と効率的な事業運営へ向けて

今後も新型コロナウイルス感染症拡大リスクが想定されるほか、エネルギー・物資価格の高騰等のリスクに対応するため、当期は、宿泊料金の値上げと共に、充実したサービスの提供により一人当たりの消費単価の向上に努めた結果、コロナ禍前の令和元年度の同単価を大きく上回るものとなりました。

また、これまでの大量集客を前提とした事業運営を見直し、引き続きスリムな運営体制の構築を目指してまいります。また、繁閑による利用客の変動を少なくし、平準化を図ることなどで、サービスや要員の効率化にも継続して取り組んでまいります。

一方、当社では、室堂ターミナルの宿泊並びに立山黒部アルペンルートの飲食・物品販売事業に専念しながら業績の回復を目指してまいりました。今期の営業におきましては収益の向上を図るべく、山で泊まらなければ経験できないオンリーワンの魅力やサービスに磨きをかけるとともに宿泊等の価格を見直し、高付加価値のある商品を提供してまいります。

今後も多くのお客様に楽しんでいただき、立山黒部の素晴らしさが広く伝わるよう職員一丸となって邁進いたします。

2. 宿泊・食品の安全確保と自然保護

当社施設や食品の安全については、お客様が安心・信頼してご利用いただけるよう、今後とも万全を尽くしてまいります。施設の日常点検と整備、並びに食品の衛生管理と品質管理を徹底してまいります。

新型コロナウイルスの拡大防止対策については、お客様とスタッフの安全を最優先に考え、安心してご利用いただけるよう引き続き努めてまいります。ウィズコロナにおける受入対策として、「健康管理」「衛生管理」「3密回避」の3つの感染防止対策を徹底し、安心安全にお過ごしいただけるよう努めてまいります。また、特異な環境に配慮した施設設備の維持更新やごみ処理対策の徹底等、引き続き立山黒部の大自然を守り伝えるための努力を続けてまいります。

昭和47年9月1日の開業以来、ホテル立山はおかげさまで昨年50周年を迎えました。次の50年に向け、幾多の先人の方々が築き上げてきた「ホテル立山」ブランドを今後も多くのお客様に支持していただき、選び楽しんでいただける立山黒部アルペンルートへと進化するために、役職員一同全力を傾注してまいります。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

財務諸表

貸借対照表の要旨

(令和5年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	230	流動負債	219
現金及び預金	152	支払手形	1
売掛金	1	買掛金	13
未収金	10	短期借入金	22
未収法人税等	0	関係会社短期借入金	97
商品	9	リース債務	5
貯蔵品	48	未払金	15
前払金	6	未払費用	0
前払費用	0	未払法人税等	30
その他	0	未収消費税等	3
		預り金	9
		賞与引当金	20
固定資産	1,272	固定負債	1,250
有形固定資産	1,137	長期借入金	111
建物	617	関係会社長期借入金	608
建物附属設備	273	リース債務	5
構築物	56	退職給付引当金	522
機械及び装置	3	長期未払金	3
車両及び運搬具	0	負債合計	1,470
器具及び備品	40	(純資産の部)	
土地	119	株主資本	47
建設仮勘定	26	資本金	10
無形固定資産	10	資本剰余金	83
ソフトウェア	9	その他資本剰余金	83
電話加入権	1	利益剰余金	△46
投資その他の資産	125	その他利益剰余金	△46
投資有価証券	59	繰越利益剰余金	△46
関係会社株式	35	評価・換算差額等	△14
その他	31	その他有価証券評価差額金	△14
		純資産合計	33
資産合計	1,503	負債・純資産合計	1,503

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

損益計算書の要旨

(令和4年4月1日～令和5年3月31日) (単位：百万円)

科目	金額
売上高	1,424
売上原価	263
売上総利益	1,160
販売費及び一般管理費	1,094
営業利益	66
営業外収益	28
営業外費用	10
経常利益	84
特別損失	140
税引前当期純利益	84
法人税、住民税及び事業税	0
当期純利益	83

株主資本等変動計算書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計		
		その他 資本剰余金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金			
当期首残高	10	-	△129	△35	△16	△52
当期変動額						
当期純利益			83	83		83
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					2	2
当期変動額合計	0	0	83	83	2	85
当期末残高	10	83	△46	47	△14	33

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要／役員 (令和5年6月29日現在)

●設立年月日 昭和42年12月24日	●役員 代表取締役社長 見角 要
●資本金 1千万円	常務取締役 経営管理本部長・経営企画部長 田草川健二
●発行済株式総数 900,000株	常務取締役 経営管理本部副本部長・ 大谷 真一
●株主数 2名 立山黒部貫光株式会社 富山地方鉄道株式会社	常務取締役 経営管理本部副本部長・ 川高 健裕
	取締役 取締役 技術環境部長 中田 邦彦
	取締役 取締役 総務部長 杉林 義宏
	監査役 出来田 肇
	監査役 新庄 一洋

アルペンルートと会社のあゆみ

昭和27年 4月 1日	立山開発鉄道株式会社（TKR）設立（資本金2,500万円）
29年 8月13日	鋼索線（千寿ヶ原～美女平）営業開始
30年 7月 1日	高原バス（美女平～弘法）営業開始
31年10月 4日	弥陀ヶ原ホテル営業開始（TKR）
35年 5月 8日	立山黒部有峰開発株式会社（TKA）設立
39年 6月20日	高原バス全線（美女平～室堂）営業開始
8月 1日	関電トンネルトロリーバス（扇沢～黒部ダム）営業開始
11月 7日	TKA第34回取締役会で新会社（TKK）設立を決議
12月25日	立山黒部貫光株式会社（TKK）設立（資本金4億円）
42年12月24日	立山貫光ターミナル株式会社（TKT）設立（資本金3,000万円）
44年 5月 8日	室堂ターミナルビル建設工事着工
7月20日	黒部ケーブルカー（黒部湖～黒部平）営業開始
12月 9日	立山トンネル貫通
45年 7月 1日	富山～信濃大町間を「立山黒部アルペンルート」と命名
7月25日	立山ロープウェイ（黒部平～大観峰）営業開始
12月15日	一般自動車道 桂台～美女平間供用開始（TKA）
46年 4月25日	立山トンネルバス（室堂～大観峰）営業開始
6月 1日	立山黒部アルペンルート全線開業
47年 8月28日	室堂ターミナルビル全館完成
9月 1日	ホテル立山営業開始
54年10月 1日	TKKとTKAが合併
61年 4月11日	宇奈月国際ホテル新築工事着工
62年 9月21日	宇奈月国際ホテル営業開始
平成 2年10月 1日	立山黒部サービス株式会社（TKS）設立（資本金1億円）
3年10月11日	弥陀ヶ原ホテル改築のため閉館
6年 7月12日	弥陀ヶ原ホテル改築営業開始
12年 4月 1日	弥陀ヶ原ホテルTKRから経営受託
17年10月 1日	TKKとTKRが合併（存続会社 立山黒部貫光株式会社）
21年 4月 1日	宇奈月国際ホテルTKKから経営受託
令和 3年 3月31日	宇奈月国際ホテル、弥陀ヶ原ホテル TKKとの経営委託契約を解消
4年 9月 1日	ホテル立山 開業50周年記念日

ご案内



〒930-1414富山県中新川郡立山町芦峯寺室堂

☎(076) 463-3345 FAX(076) 463-3348

<https://h-tateyama.alpen-route.co.jp/>

(編集・発行) 立山貫光ターミナル株式会社

〒930-8558富山県富山市桜町1-1-36

☎(076) 441-3331(代表) FAX(076) 433-1185